

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970500795		
法人名	有限会社 夢野家		
事業所名	グループホーム 夢野家Ⅱ		
所在地	奈良県橿原市東坊城町197番3		
自己評価作成日	平成22年11月5日	評価結果市町村受理日	平成23年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・天気の良い日には積極的に散歩にでかけるようにし、地域に溶け込む暮らしを提供しています。
 ・利用者6名という少人数ならではのフットワークの良さを活かし、映画や花の観賞など、外出や外食の機会を多く持つようになっています。
 ・民家改修型のため、障子や畳みなど、馴染みのある昔ながらの家で、自宅にいるような暖かで穏やかな暮らしを過ごされています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2970500795&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これまでと同じような環境で生活しやすいように古民家を改修し開設された当該ホームは、畳に障子を基本とし利用者は入居後も違和感なく生活しています。玄関やホーム内にも段差がありますが、廻り廊下を含め利用者は気をつけて歩行され、職員も見守る中で日常生活の中で歩行訓練ができています。食事にもこだわりを持ち、野菜中心の献立で品数も多く、五感刺激に配慮し見た目もきれいな状態で提供しています。利用者が6人という少人数で外出支援がしやすく、月に2回の行事や天気のいい日は個々の希望を聞きながら散歩や買い物に行くなど、出かける機会を多く設けています。ホームでは職員間で何でも話し合い解決することで働きやすい環境を作り長く勤めることができ、同じ職員でケア出来ることで利用者との馴染みの関係が構築され、穏やかで安心な暮らしが続いています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年11月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「そのままのあなたでいい」、「老いる自由を楽しみましょう」をホームの理念として掲げ、地域に根ざした暮らしを大切にしています。ミーティング時に理念について説明し、日々の振り返りや確認を行っています。	理念は年頭に全員で振り返り、再確認を行っています。職員は利用者に尊敬と共感をもって関わることを基本とするバリデーションをケアに取り入れ、地域に出かけることを多くして閉じこもりを予防するなど、理念を実践に活かしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、校区民祭などにも参加しています。近隣の方から花や野菜をいただいたり、散歩の際には声を掛けていただいています。	広報誌や地域の職員から情報を得て、地域の敬老会や夏祭り 秋祭りなどに参加し、交流を深めています。歌や踊り、手芸の先生や庭師など、有償、無償の地域のボランティアの来訪も利用者の楽しみとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の高齢者の暮らしについて話し合っています。見学や電話で地域の方から相談を受ける機会があり、福祉サービスの利用や認知症ケアについて助言を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は「茶話会」と名を変え、おおむね3ヶ月に一度行っています。最近は家族様の参加が多く、ホームの取り組み状況や防災に関することなど、話し合いも活発になっています。	会議開催の案内は利用者の家族全員に行い、徐々に家族の出席も増えています。民生委員から地域の情報を得たり、看取りについて話し合うなど、サービス向上に活かしています。参加者の負担を考え、2ヶ月毎の開催には至っていません。	テーマを決め開催したり、行事の際に行うなど、無理のない形で定期的開催されることが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が派遣している介護相談員を月一回受け入れています。運営推進会議には市職員および介護相談員の出席があり、情報や意見をいただき、サービスの向上に生かしています。	年に一度実地指導を受け、運営推進会議への参加もあるなど、市の職員とは連携を図りながら良好な関係を築いています。市の介護相談員を毎月受け入れており、ホームの行事にも参加してもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を年1回行っています。全ての職員が身体拘束をしないケアを行っており、日中は玄関の鍵を開錠しております。	職員が奈良県主催の身体拘束に関する研修に参加し、持ち帰って伝達講習を行い、周知徹底を図っています。職員も身体拘束について正しく理解し、日中玄関は施錠せず、センサーにて職員が対応しています。利用者が外に出たそうにしている時は、職員が同行し散歩するなど支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県主催の高齢者虐待防止の講演会に参加し、社内勉強会にて情報を共有しています。普段から職員のストレス防止を心がけ、何でも相談できる雰囲気作りを心がけています。		

グループホーム夢野家Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者には実際に成年後見制度を利用されている方がおられます。管理者は成年後見制度活用講座を受講しており、家族様からの相談にも対応できるようにしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書をもとにサービス内容をわかりやすく説明しています。退所時には入院中の利用者に行ったりと、家族や利用者の不安を軽減するよう努めました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族と信頼関係を結ぶよう全員で取り組み、何でも話していただける雰囲気作りを心がけています。また、月1回の介護相談員の来訪があり、利用者の意見を汲み取っていただき運営に反映させています。	日々のコミュニケーションを大切に、利用者が意見を言いやすいよう努めています。年に一度、家族参加の外出行事を催し、家族が交流できる機会を作っています。家族からの声に対しては職員で検討し、結果は家族にも報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は職員と日常的に顔を合わせており、普段の会話からも意見や提案を聴く機会が有り、運営に反映させています。	職員の全体会議は2ヶ月に一度実施しています。管理者から相談を持ちかけたり、偏ることなく意見を求めることで、何でも言い合える関係を築いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の職員も働きやすい職場を目標に、日々取り組んでいます。離職率は低く、5年以上勤務している職員が6割を占めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市から情報をいただく認知症実践者研修には毎年1名参加しています。また、定期的に勉強会を開き、スキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとは合同での行事を多く設け、職員同士の交流を促し、サービスの振り返りと質の向上に役立てています。近隣のグループホームとは電話で連絡を取り合い、相談にも乗っていただいています。		

グループホーム夢野家Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の了解の上、本人の状況によって入居前に面談する場合があります。転居による不安を少しでも軽減できるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯を家族から丁寧に伺い、入居する事への罪悪感を最小限にできるよう、意向や希望を伺っています。また、連絡を密にとることで共に利用者を支える関係作りを築くように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時に当ホームが満室で利用していただけないときや、当ホームの利用に該当されないと見極めた時には、必要な該当サービスや相談先を紹介させていただいてます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔からの習慣や礼儀作法など教えていただくことは多く、尊敬に繋がっています。言葉遣いなどで叱られることもしばしば、職員にとっては学びの場となっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談しながら利用者のケアに取り組んでいます。不穏な方は家族との外出を増やしたり、電話でお話する機会をもつなど、利用者の不安を軽減するよう家族の協力を得ています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙、年賀状などを出す支援をしています。また、個別の外出支援も行っています。	利用者の友人が訪ねてきた時は、自宅のように過ごして頂いています。家族との墓参りの支援や妹の家までの送迎、孫の結婚式への出席など、家族との関係の継続を支援しています。また12月は、すべての利用者が年賀状を出すなど、季節を忘れない支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、居間や食卓での座る位置を配慮したり、気の合う入居者同士で穏やかに過ごせる時間を作っています。共感が持てる話題やレクを提供し、仲間意識を強められるように努めています。		

グループホーム夢野家Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族や利用者へ継続的に連絡をとるようにしています。適時、相談や支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、家族に基本情報を書きいただいています。センター方式を改良したアセスメントシートを使い、家族から伺ったり、利用者との会話や表情から希望や意向の把握に努めています。	利用者の意向は日常会話の中で把握しています。困難な場合は表情やしぐさなどから汲みとったり、家族からも時間をかけて話を聞いています。これらの情報はセンター方式の一部を利用し、本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に家族やケアマネ、医療関係者から生活歴や生活環境、利用サービスについて伺い、利用者のこれまでの暮らしについて把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を改良したアセスメントシートを用い、定期的にあセスメントを行っています。現状の暮らしについて総合的に把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や利用者の希望を聞き、アセスメントや記録をもとに計画作成担当者を中心に職員で話し合い、介護計画を作成しています。	計画作成担当者が立てた原案をもとにケアカンファレンスで話し合い、職員の思いや気づきを介護計画に反映させています。介護計画は3ヶ月に一度モニタリングを行い評価し、6ヶ月で見直しています。利用者の急変や状態の変化に合わせ主治医の意見も聞きながら、関係者と連携を図り介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルや食事量、水分量、一日の様子、気付きなど個別に記録し、情報共有や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	妹宅への送迎や孫の結婚式への送迎、ご主人が入所中の施設へ同行など、一人ひとりに合わせた外出支援を行っています。衣類などの補充を家族様に代わって担い、ズボンの裾上げもさせていただいています。		

グループホーム夢野家Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時には道行く方に助けていただくため、職員手薄で出かけるときもあります。急なスロープを登るために車椅子と一緒に押して下さったり、介助中に他の方を見守って下さったり。地域資源を活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望に添ってかかりつけ医を決めています。定期的に協力医・歯科医に職員同行のもと通院しています。看取り期や緊急時には近隣医による往診体制も整えています。	入居時に医療機関の希望を確認しかかりつけ医を決め、以前のかかりつけ医を継続されている利用者もいます。個々の利用者の必要に応じて受診し、職員が同行し診察結果を家族に報告しています。歯科医の定期的な訪問もあり、協力医は夜間や緊急時の対応も可能で、日常の健康管理は職員が行う等、安心して暮らせる体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成者が看護師であるため、利用者の健康状態を継続的に把握しています。また、介護職員への指示、助言につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	以前、大腿骨頸部骨折にて入院された方がおられたときには、何度も様子を見に行き、病院側とも連絡を密にし、早期退院につなげました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りまで行うことを説明し、機会があるごとに何度も家族の意向を確認します。職員とも方針を共有しており、ターミナルに関する勉強会を開いてスキルアップに努めています。	看取りについての方針は、入居時に家族に説明しています。利用者の急変や体調不良時には、再度協力医から家族に説明してもらい、意思を確認しています。職員もホームの方針を共有し、今までの看取りの経験を活かして家族や主治医、看護師とも連携を図りながら取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	赤十字の救急法を受講し、社内勉強会にて情報を共有しています。夜間の急変や事故発生時には近くに住む職員による応援体制を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での避難訓練を行いました。職員は地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議でも話題にして協力を呼びかけています。今後は消防署にも指導をお願いする予定です。	夜間想定での自主避難訓練を実施しています。運営推進会議で議題に挙げ話し合ったり、地域に協力を呼びかけています。近隣の方から協力についての申し出があります。	今後は消防署の指導を受けての訓練を予定している事もあり、運営推進会議の参加者や申し出のある近隣の方に立会ってもらってはいかがでしょうか。

グループホーム夢野家Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者はおお客様である」を共通認識とし、言葉遣いには注意するようにしています。失禁時なども、他の方に気づかれないようさりげなく誘導し、自尊心を傷つけないような声掛けを心がけています。	プライバシーの確保については経営者が一番大切にしている部分であり、家族や外部者が聞いてもおかしくないような声かけを心がけています。職員間で注意し合ったり、自身での言葉かけを振り返るなど、職員一人ひとりが常に意識し、対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や着る服を選んでいただいたり、その日をどのようにして過ごすかなど、一人ひとりに合わせた場面で自己決定の機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、入居者ペースでの暮らしを提供するよう心がけています。おおまかなスケジュールはありますが、基本的には自由です。散歩や朝の掃除など今までの習慣や希望に添った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容によるカットを二ヶ月に一度、ホーム負担で利用しています。本人の希望で同時に毛染めをされる方もいます。当日は拒否されるため、毛染めを受けられるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の意見や希望を聞きながら、その日の献立を決めています。入居者のできる部分(下ごしらえ、配膳、後片付け)を活かして一緒に調理を行い、職員は同じものをいただきながら、食事介助を行います。	食事の準備、片付けなど利用者と共にやりやすいように台所は中央に作業台が設置してあります。天気の良い日は一緒に買い物に出かけています。野菜を多く使い、品数も多く豊かな食事内容となっています。その日の気分で、ウッドデッキやサンルームで食事するなど、利用者と職員にとって楽しみな時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事量は毎日記録しています。旬の自家製野菜中心の料理で、見た目も大切にしています。嚥下、咀嚼状況に応じた食事を提供したり、食が進まない方には数回に分けるなど臨機応変に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを支援しています。特に、歯周病にて通院中の方には歯間ブラシでの仕上げ磨きを支援しており、症状の緩和に繋がっています。		

グループホーム夢野家Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく紙パンツは使わず、布パンツで過ごしていただけるよう支援しています。一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレにて排泄していただけるよう取り組んでいます。	一人ひとりの排泄チェックシートを作成し、排泄パターンを把握し誘導しています。入居後に布パンツにパットで対応し、失敗のない誘導により自信を取り戻した利用者もあり、家族にも喜んでもらえるなど、個々の自立にむけての支援をしています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の自家製野菜中心の料理のため、利用当初は酷い便秘症の方も緩和傾向にあります。腹部マッサージを行ったり、便秘解消効果のある飲食物を勧めたりと、普段から便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後14時～17時を入浴時間とし、2、3日に1度入浴していただいています。希望があれば午前中も対応可能です。入居者のタイミングに合わせた入浴を続け、強い入浴拒否の利用者も状態が緩和しています。	個々の希望に沿って午前中に入浴したり、湯温や入浴時間を調節しています。また季節により入浴剤を使用したり、個人の石鹸を使用し気持ち良く入れるよう支援しています。拒否の強い利用者には、タイミングを計って声かけしたり、必要に応じ家族の協力を得るなどの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に日中も眠りたいときには眠っていただいています。照明などで眠りやすい環境を整え、どうしても眠れない方には医師の指導の下、投薬支援をさせていただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が一人ひとりの薬の用法、副作用などについて、いつでも確認できるようにしています。投薬変更時には引継ぎ書にて情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(下ごしらえ、食器拭き、洗濯たみ、掃除機がけ)が得意な方には職員と一緒に、やりがいを持てるような声掛けを行っています。知識や教養で能力を発揮してくださっている方もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が好きの方が多く、天気の良い日には散歩を楽しんでいただけるよう努めています。また、お孫さんの結婚式参加のため、春日大社への送迎を行いました。急なスロープや階段が多く、道行く方に助けていただきながら到着することが出来ました。	散歩コースがいくつもあり、天気の良い日は必ず散歩に出かけています。個別の希望に合わせ、近くのスーパーに洋服やおやつなどの買い物に行っています。月に2回は外出の機会を設け、公園や催しに出かけ、お弁当を買って外で食べることもあります。	

グループホーム夢野家Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されている方はおられません。以前、該当の方がおられ、受診や買い物などの支援をしていました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は自由に使用でき、使用時には番号をかけるなどの支援をしています。年賀状やお礼状などは宛名を代筆するなどの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修のため、自宅にいるかのような生活感があります。広い庭があるため四季折々の草花がすぐ傍にあり、季節は肌で感じただけです。	民家改修型のホームは温かい雰囲気です。利用者は太陽がよくあたるサンルームやリビングと好きなところで過ごされています。広い手入れの行き届いた庭には実のなる木がたくさんあり、木々や草花、収穫を通じ季節を感じながら過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は居間の他にも、ウッドデッキやサンルームなどがあり自由に過ごすことができます。ひとりで日光浴されていたり、仲の良い利用者同士が楽しくおしゃべりされている姿が日常的に見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台や人形を持ち込み、家族との思い出の写真を飾っています。また、本好きの方には本棚を、字を書かれる方には机を用意し、居心地良く部屋にて過ごしていただけるよう工夫しています。	各居室はたたみに障子と和風つくりで広々としており、ベッドやタンスはホームが用意しています。使い慣れた物の持ち込み、利用者が好きなことが出来るように机を設置するなど、居心地のいい空間を提供しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレをわかりやすく表示したり、下駄箱やお風呂場など、入居者の方が間違えやすい場所に案内表示を置いています。混乱を防ぎ、自分で出来ることを増やすような工夫を行っています。		